

食品ロス削減対策のポイント

- ・ 連携、可視化、IT活用
ex. 食品ロスダイアリーアプリ、マッチングアプリ
- ・ 仕組み（インセンティブ）と教育と啓発
ex. 商慣行見直し、食育、キャンペーン展開
- ・ 選択時の情報提供による誘導
ex. 店頭啓発・店頭コミュニケーション
- ・ 地域や対象を絞ったプロジェクトの推進
ex. 大丸有地区食品ロス・食品廃棄物削減プロジェクト
（大手町、丸の内、有楽町）

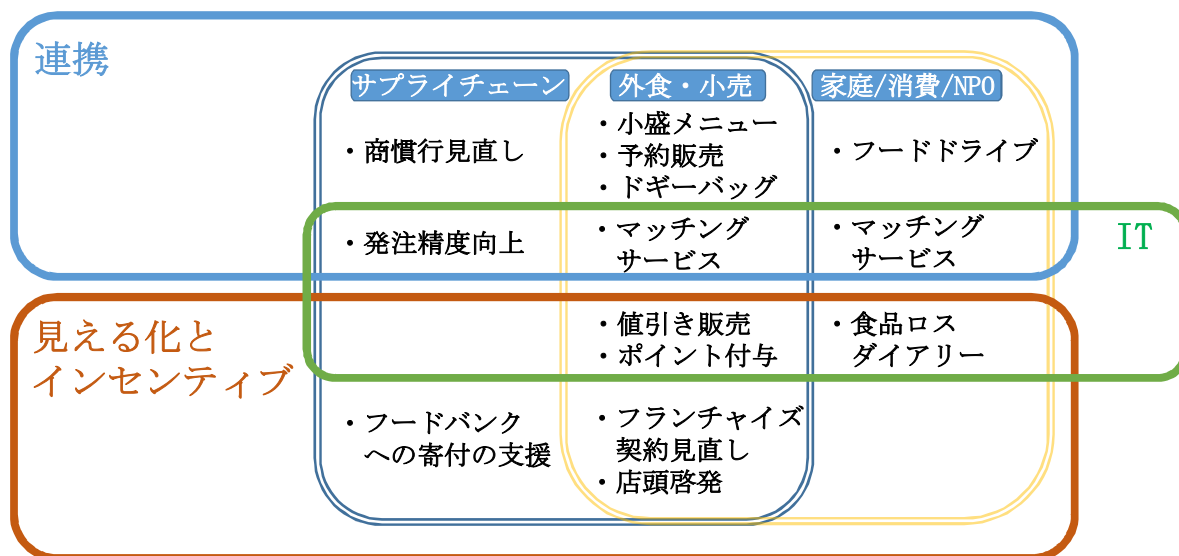
2019/11/25
食品ロス削減推進会議（第1回）
石川雅紀提出資料

2019/11/25

© 石川雅紀

1

食品ロス削減対策のマッピング



2019/11/25

© 石川雅紀

2

店頭での購買時点での情報提供・啓発の例



TESCO (UK)での商品包装への表示

2019/11/25



ダイエー（神戸）での店頭コミュニケーション

© 石川雅紀

3

神戸市で一步踏み込んだ「食品ロス実態調査」を実施しました（結果報告）

～約 700 世帯の市民モニターと全国初の「食品ロスダイアリー」による調査を実施～

神戸市では、資源を有効利用し、ごみができるだけ発生しないくらしと社会（循環型社会）の実現、ひいては二酸化炭素の排出が少ないくらしと社会（低炭素社会）を目指して、ごみ排出量 10%削減を目標に掲げ、さまざまな取り組みを重ねてきました。

特に「食品ロス（手つかず食品・食べ残し）」に関しては、日本の食品ロス（約 621 万 t）が世界全体の食糧援助量（約 320 万 t）を上回るなど、全国的な社会課題となっています。

これまでも国の調査において、食品ロスに関する「世帯員構成別の廃棄量」や「食品別の廃棄量」など基本的な情報は把握できていましたが、神戸市では、一步進んだ食品ロス削減の対策を検討するため、市民モニターの協力のもと、さらに踏み込んで「食品別の廃棄理由」や「廃棄につながる具体的要因」など、各家庭の実態を把握できる調査を行いました。

このたび、食品ロス削減対策検討に向けて、一定の視点のもと調査結果を整理しましたのでお知らせします。

1. 調査の概要

手付かず又は食べ残しで食品を廃棄した場合に、その種類、量、廃棄理由、保存方法などを記録する「食品ロスダイアリー」を作成しました。

このダイアリーを約 700 世帯の市民モニターの方々に協力いただき、日記形式で廃棄のたびに記録していただくことで、各家庭の実態を把握することができました。

	第 1 回（冬季調査）	第 2 回（夏季調査）
期間（各 4 週間）	平成 28 年 11 月 28 日～12 月 25 日	平成 29 年 6 月 26 日～7 月 23 日
市民モニター	302 世帯	375 世帯

2. 主な調査結果（参考：別紙）

- ・食品ロスが「ない」、「ほとんどない」と考えていた家庭でも平均 3～4 回廃棄
- ・調査開始 1 週目から 4 週目へ週を追うごとに廃棄が減少
- ・生鮮野菜の廃棄が最も多く、理由の多くは品質の劣化
- ・買い物前に在庫チェックをしている世帯は、しない世帯より廃棄が 3 割少ない
- ・子どもがいる世帯の廃棄理由は「子どもの食べ残し」が最も多い
- ・1 人あたりの食べ残しが最も多いのは単身高齢世帯（子どもがいる世帯の約 2 倍）で、廃棄理由は「作りすぎ、量が多い」が最も多い

神戸市で一步踏み込んだ 「食品ロス実態調査」を実施しました (結果報告)

～約700世帯の市民モニターと
全国初の「食品ロスダイアリー」による調査を実施～



「食品ロス」の深刻な現状

BE KOBE

日本の「食品ロス」

約 **621** 万トン(※)

うち事業系
339万トン

うち家庭系
282万トン



世界全体の食糧援助量(2015)

約 **320** 万トン

(※)国民1人1日あたり・・・食品ロス量 約134g (茶碗1杯のご飯の量に相当)
神戸市民1人あたり・・・年間12kg、12,000円分 (事業系及び過剰除去を除く)



神戸市独自の実態調査（4週間 夏・冬）

- ・ **品目別の廃棄件数（割合）**
（ごはん、きゅうり、レタスなど）
- ・ **品目別の廃棄理由**
（品質の劣化、期限切れなど）
- ・ **廃棄につながる具体的要因**
（冷蔵庫等の確認の不徹底、買いすぎなど）
- ・ **世帯員構成別の食品ロスの傾向**
（世帯数、こども・高齢者の有無）

これまでの調査（農林水産省）（1週間）

- ・ **食品別の食品ロス量・割合**
（穀類、野菜類、など）
- ・ **世帯員構成別の食品ロス量・割合**
（単身、2人世帯など）
- ・ **食事管理者の年齢階層別の食品ロス率**

具体的な対策に
つなげるための、
一歩踏み込んだ
詳細な情報

食品ロスの
基本的な情報

約700世帯の市民モニターと実施した 全国初の「食品ロスダイアリー」による実態調査

BE KOBE

1 週目 未使用のまま捨てた食品

6/26 (月) ~ 7/2 (日)

A. 未使用のまま捨てた食品を記入

★一週間、未使用のまま捨てた食品がなかったときは、以下のボックスをチェックしてください。

☐ ←ここをチェック

* 1つだけ

①ばら売り (籠り売り含む)

②まとめ売り (袋・バック入り、セト売の)

③もらった

④自家栽培

* 1つだけ

①はい

②いいえ

* gは目安量でOK

	日付	捨てたもの	捨てた量 g、本、個、枚	買った量 g、本、個、枚	入手方法	(買ったときだけ) 安くついで買ったもの？
1						
2						
3						
4						
5						
6						
7						
8						
9						
10						
11						
12						

* 2つ以上OK

①品質の劣化

②期限が切れた

③飽きた・好みでない

④片づけたかった

⑤その他(内訳を記入)

* 1つだけ

①はい

②いいえ

* 2つ以上OK

①品質の劣化

②期限が切れた

③飽きた・好みでない

④片づけたかった

⑤その他(内訳を記入)

* 1つだけ

①工夫した (工夫の内容を記入)

②工夫していない

* 2つ以上OK

①冷蔵庫等の整理・在庫確認

②期限を早めに確認

③量り売り・少量販売

④長持ち保存法の実践

⑤使い切りレシートの実践

⑥買い過ぎに注意

⑦その他(内訳を記入)

↑選択肢の番号を記入

見切り品・ 値引きシール付 の食品だった？	捨てた理由	(生鮮食品のときだけ) 長持ちする工夫 をしていた？	どうすれば 捨てずにすんだ？

1 週目 未使用のまま捨てた食品

種類、量、廃棄した理由
保存方法や
どうすれば捨てずに済んだか

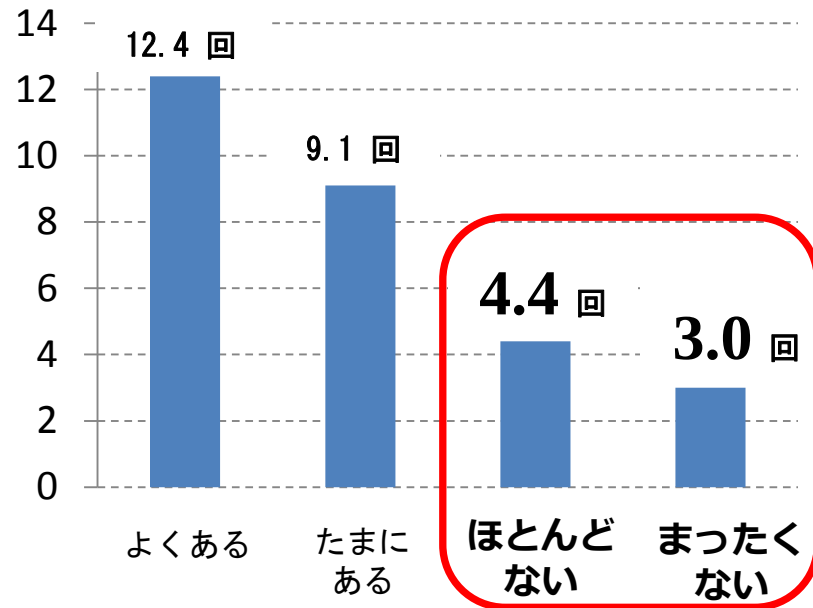
など**日記形式**で振り返り

神戸市独自で、手付かず or 食べ残しで食品を廃棄した場合に
記録する「食品ロスダイアリー」を作成

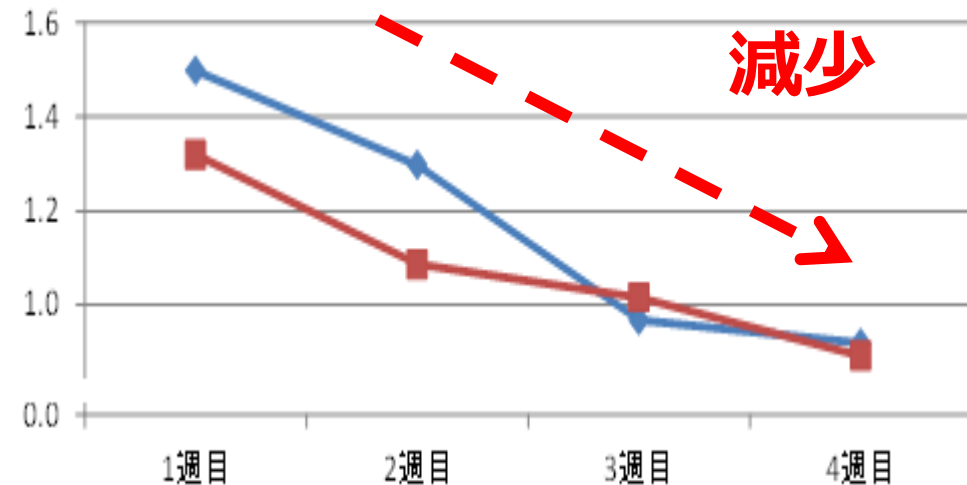
食品ロス量は過小評価しがち

BE KOBE

調査前の意識と手付かず食品の
発生回数
(回/4週)



手付かず食品・食べ残しの
発生回数推移

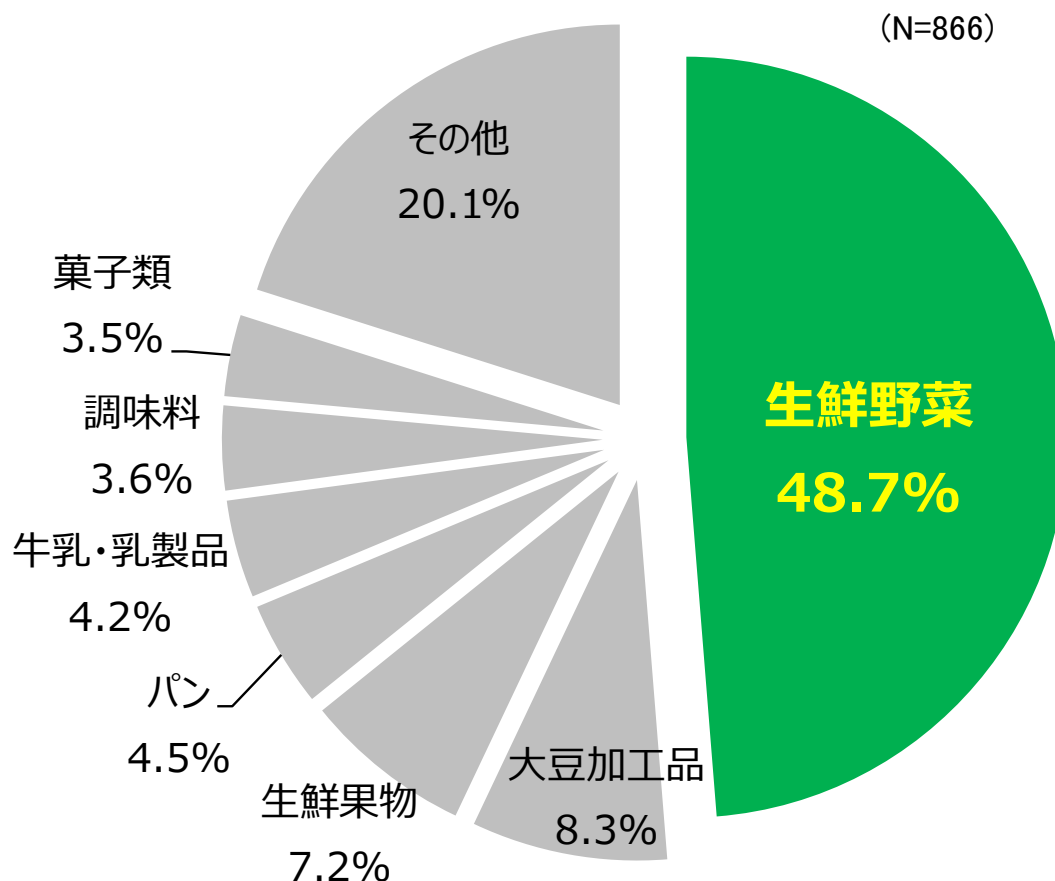


- ・食品ロスが「ない」「ほとんどない」と考えていた家庭でも月に平均3~4回廃棄
- ・食品ロスを記録・自覚することで、手つかず食品・食べ残しのいずれも、週を追うごとに減少

手つかず食品のトップは「生鮮野菜」

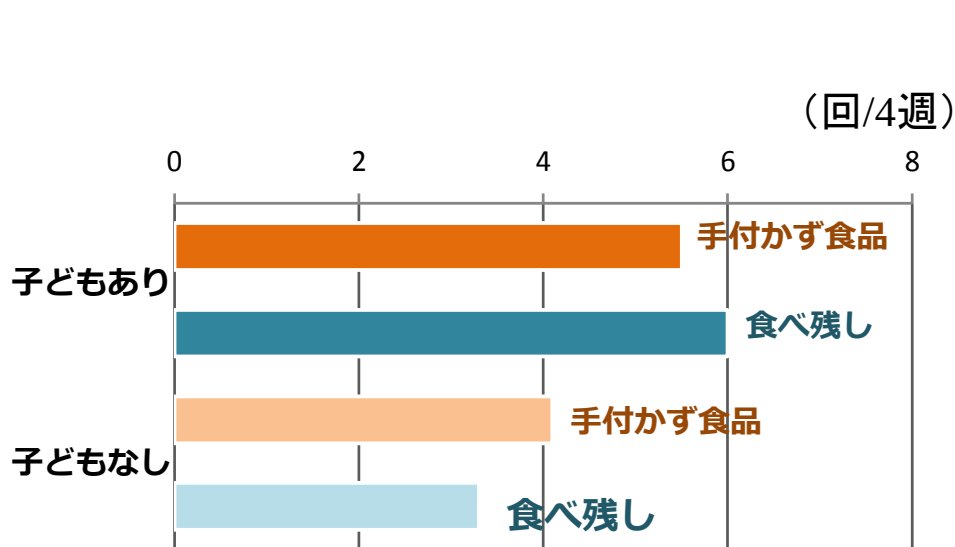
BE KOBE

廃棄された手つかず食品の分類（件数ベース）

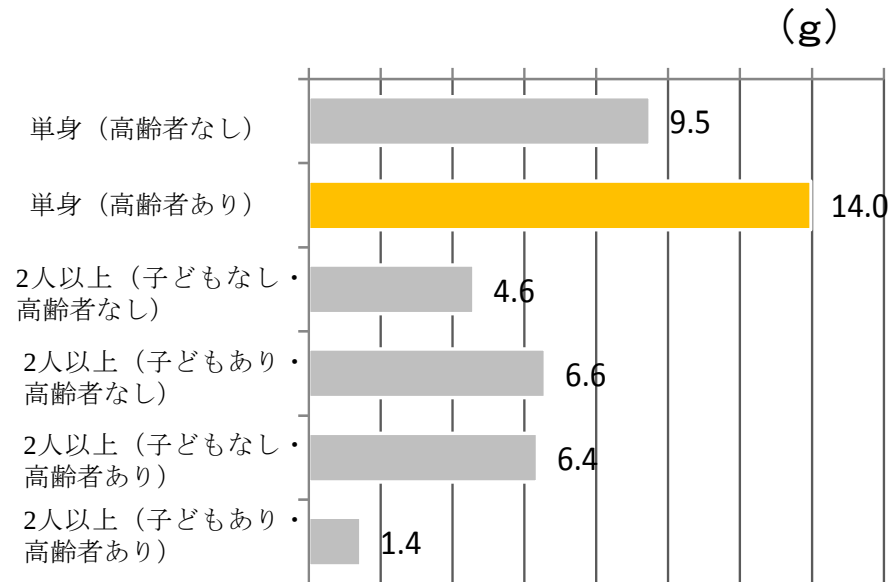


夏季・冬季を通じて、**生鮮野菜**（きゅうり・レタス・キャベツなど）の**廃棄件数が多い**

子どもがいる世帯や単身高齢者世帯など、世帯毎の課題がわかった



子どもの有無別の食品ロス発生回数



1人1日あたり食べ残し重量比較
(世帯構成別)

子どもがいる世帯と**単身高齢者**世帯は特に「**食べ残し**」が多い

- ① 市民の意識の醸成（自覚化）が必要
- ② 食品ロスが減る行動の習慣づけが必要
- ③ 特に食品ロスが多い世帯を対象とした対応が必要



具体的な取り組みの検討、準備を市民・事業者・学識経験者と協働で進めています